

<学生版> 求職者の動向・意識調査 2023

Vol.1 「学生アルバイトの変化が分かる、2018・2023年調査比較」

－1年以内のアルバイト探し経験が、26.8%から55.2%に増加－



株式会社リクルートの調査研究機関「ジョブズリサーチセンター」では、求職者の動向や意識を調査するために、隔年で「求職者の動向・意識調査」を実施しています。本調査は、その「求職者の動向・意識調査」の学生版として、高校生・大学生等に、在学中のアルバイトに関する動向や意識についてアンケートを行いました。本レポートでは、今回の調査結果の一部と、2018年に実施した「<学生版> 求職者の動向・意識調査 2018」を比較し、高校生・大学生等のアルバイトに関する動向や意識の変化を見ていきます。

【調査のポイント】

① アルバイト探しの状況 (P5～6)

1年以内（2022年1月～12月）に**アルバイト探しをした学生は26.8%から55.2%に大きく増加**。

また、アルバイト探しの結果、「仕事が決まったので終了した」割合も約7ポイント上昇しました。

一方で、最近1年以内にアルバイトをした学生は70.0%から57.4%に約13ポイント減。理由としては、**2018年には、1年以内にアルバイト探しをしていないが、アルバイトをしていた（それ以前に始めたアルバイトを続けている）学生が47.9%いたのに対し、2023年には14.2%に留まったことが考えられます**。コロナ禍の影響などでアルバイトを控えていた状況から、この1年で、アルバイト探しをする学生が増えた可能性がありそうです。

アルバイト探しをする割合が大きく伸びたなか、アルバイトに意欲的な学生からは、以下のような声が聞かれました。

「自宅近くを条件に働いているが、自分がやりたいこと、時給が良いところも探したい」（大学1年生/コンビニ・スーパー・店員）

「色々なバイトを経験したい」（大学4年生/衣類・雑貨・小物販売店員）

「将来のための社会経験を積みたい」（高校3年生/調理人、コック）

② アルバイト探しにおける絶対条件 (P8)

2018年と変わらず、学業や私生活などと両立するために、勤務時間帯や勤務日数などの働き方が重視されていますが、今回特に目立ったのは**アルバイトをする場所**です。2018年には働き方や仕事内容、給与よりも重視されていなかった**通勤時間（通いやすさ）を絶対条件に挙げた学生が38.6%から57.2%に、勤務地が45.0%から56.7%に大きく伸長**しました。

③ アルバイトの仕事内容 (P9～10)

1年以内に探した仕事内容、現在アルバイトをしている仕事内容どちらについても、**コンビニ・スーパー・店員が最も多くの回答**を集め、現在アルバイトをしている高校生の4分の1がコンビニ・スーパー・店員に従事していることが分かりました。

コロナ禍でも比較的営業時間が長く、営業日数も多いため、**学生が希望するシフトで働きやすいこと**や、自宅や学校周辺どこであっても、**自分が働きたいエリアに立地している可能性が高く、通勤がネックにならないこと**が理由として考えられます。

参考調査

本レポートでは下記調査の結果を参照した。

■ <学生版> 求職者の動向・意識調査 2018
<https://jbrc.recruit.co.jp/data/pdf/pdf201808081117.pdf>

■ 求職者の動向・意識調査 2021
https://jbrc.recruit.co.jp/data/pdf/kyushokusha_211222.pdf

2023年の調査サマリー

■ 最近1年以内のアルバイト探しの経験 (単一回答)【対象者：全員 (n=3,000)】

最近1年以内(2022年1月~2月)でアルバイト探しをした割合は、全体で55.2%、大学生等で63.0%、高校生で42.1%に上った。

大学生等
63.0%

高校生
42.1%

■ 最近1年以内のアルバイト経験 (単一回答)【対象者：全員 (n=3,000)】

最近1年以内にアルバイトをした割合は、全体で57.4%、大学生等で72.1%、高校生で33.0%という結果に。

大学生等
72.1%

高校生
33.0%

■ アルバイト探しの絶対条件 (複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人 (n=1,655)】

働き方関連への回答が多く、勤務時間帯が最多の60.4%、勤務日数にも56.3%の回答が集まった。また、通勤時間が57.2%、勤務地が56.7%と、学生がアルバイトをする場所を重視していることが分かった。

アルバイト探しの絶対条件	
1 勤務時間帯	…60.4%
2 通勤時間(通いやすさ)	…57.2%
3 勤務地	…56.7%
4 勤務日数(休日、休暇)	…56.3%
5 勤務時間数	…51.9%

■ 1年以内に探したアルバイトの仕事内容

(複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人 (n=1,655)】

1年以内に探したアルバイトの仕事内容では、コンビニ・スーパー店員が全体で29.2%と最多。飲食店のホールスタッフ22.2%、ファストフード店員19.2%が続いた。

大学生等	高校生
1 コンビニ・スーパー店員 …24.2%	1 コンビニ・スーパー店員 …41.7%
2 飲食店のホールスタッフ …21.8%	2 ファストフード店員 …32.0%
3 塾講師、家庭教師、採点 …19.5%	3 飲食店のホールスタッフ …23.2%
4 衣類・雑貨・小物販売店員 …14.3%	4 その他フード関連 …21.5% 在庫・商品管理、構内物流
5 ファストフード店員 …14.0%	5 作業 …13.9%

現在のアルバイトの仕事内容でも同様に、コンビニ・スーパー店員が最も多く18.4%。次いで、飲食店のホールスタッフ14.4%、塾講師、家庭教師、採点14.0%となった。

■ 現在のアルバイトの仕事内容

(単一回答)【対象者：アルバイトをしている人 (n=1,530)】

大学生等	高校生
1 コンビニ・スーパー店員 …16.9%	1 コンビニ・スーパー店員 …25.0%
2 塾講師、家庭教師、採点 …16.8%	・飲食店のホールスタッフ
3 飲食店のホールスタッフ …14.2%	2 ・ファストフード店員 …15.7%
4 その他販売店員 …7.4% ・ファストフード店員	4 その他フード関連 …9.3% ・その他販売店員
5 ・一般事務、スタッフ職 …5.4%	5 ・調理人、コック …4.3%

・ 調査のポイント	1
・ 2023年の調査サマリー	2
・ 目次	3
Part1 回答者プロフィール	4
<hr/>	
性別、年代、学校種別・学年、居住地、暮らしの形態	
Part2 アルバイト事情の変化	5～10
<hr/>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近1年以内のアルバイト探しの経験 ・ アルバイト探しの決定状況 ・ 最近1年以内のアルバイト経験 ・ アルバイトの継続状況 ・ アルバイト探しに関するコメント ・ アルバイト探しの絶対条件 ・ 1年以内に探したアルバイトの仕事内容 ・ 現在のアルバイトの仕事内容 	
Part3 アルバイト探しの変化	11～13
<hr/>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年以内におこなったアルバイト探し ・ 利用した情報源 ・ 応募につながった情報源 ・ 採用（内定）につながった情報源 ・ 今後（も）利用したい情報源 	

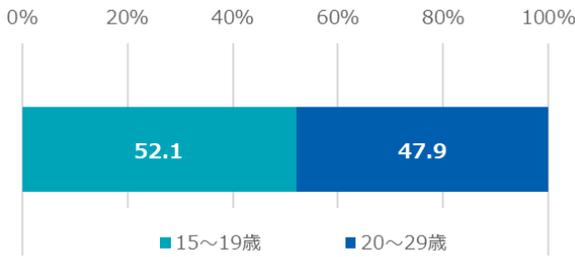
調査概要

	<学生版> 求職者の動向・意識調査 2023
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働市場における学生アルバイトの就業実態および意識を明らかにする ・ 学生のアルバイトに関する求職実態および意識を明らかにする
調査手法	インターネット調査（インテージ社モニター利用）
対象者条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国15～29歳の男女 ・ 現在の職業が大学院生、大学生、短大生、予備校生、専門学校・各種学校生、高校生のいずれかの人 ※高校生以外を「大学生等」として集計した。
調査期間	2023年1月6日（金）～1月13日（金）
有効回答数	3,000人

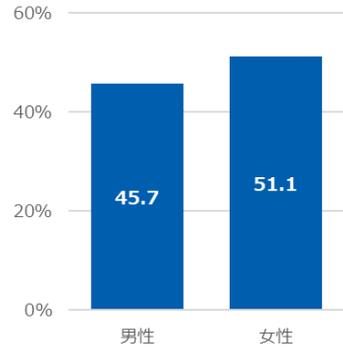
※ レポート内のグラフと数表は、集計結果の小数点第2位を四捨五入して表示している。

Part1 回答者プロフィール

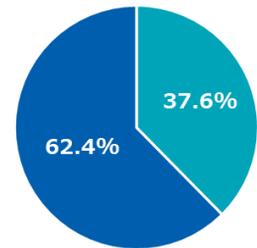
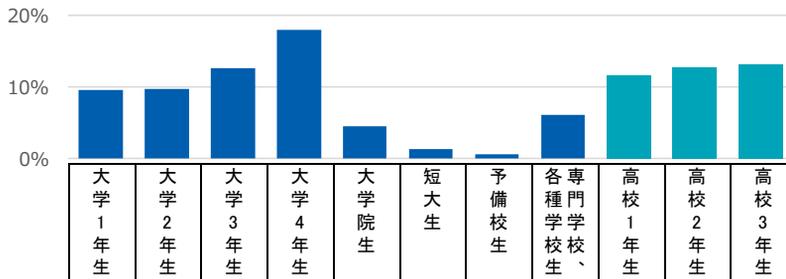
● 年代



● 性別



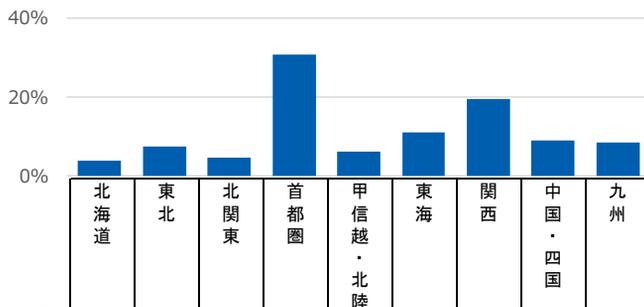
● 学校種別・学年



n=	3,000	9.6	9.7	12.6	18.0	4.5	1.3	0.6	6.2	11.6	12.8	13.2
TOTAL	3,000	9.6	9.7	12.6	18.0	4.5	1.3	0.6	6.2	11.6	12.8	13.2
大学生等	1,872	15.3	15.6	20.2	28.8	7.2	2.1	0.9	9.9	0.0	0.0	0.0
高校生	1,128	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	34.1	35.1

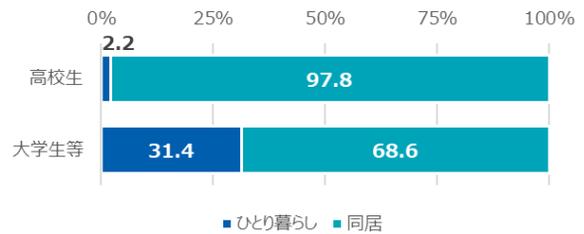
※「大学生等」には、大学生、大学院生、短大生、予備校生、専門学校・各種学校生が含まれる。

● 居住地



n=	3,000	3.7	7.3	4.5	30.7	6.1	10.9	19.4	8.9	8.5
TOTAL	3,000	3.7	7.3	4.5	30.7	6.1	10.9	19.4	8.9	8.5

● 暮らしの形態

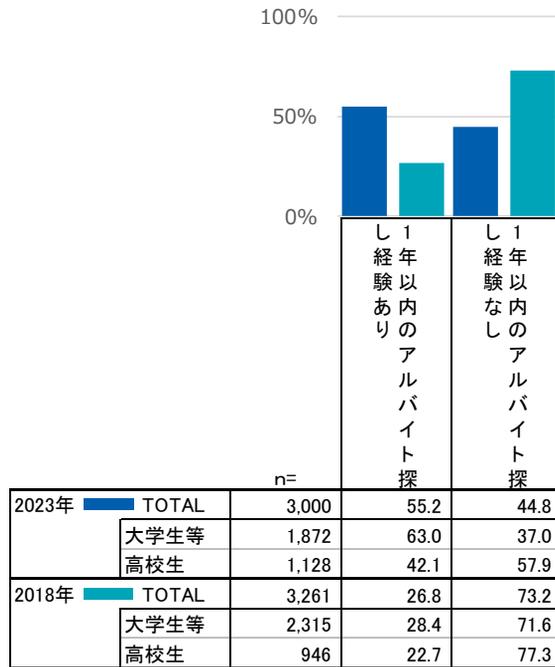


Part2 アルバイト事情の変化

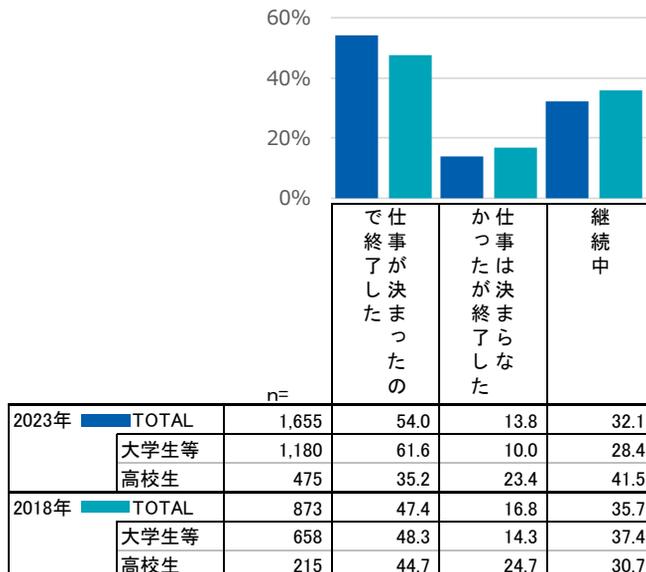
最近1年以内（2022年1月～12月）のアルバイト探しの経験では、2018年と比べ、「経験あり」が26.8%から55.2%まで約2倍に増加した。なかでも、大学生等が約35ポイントと大きく増えている。

アルバイト探しの結果、「仕事が決まったので終了した」が全体で約7ポイント増。しかし、大学生等が増加した一方、高校生は9.5ポイント減少し、「継続中」と答えた高校生が30.7%から41.5%に上昇した。アルバイト探しをする高校生は増えたものの、大学生等と比べ、アルバイト先が決まりづらい状況が予想される。

● 2-1 最近1年以内のアルバイト探しの経験（単一回答）【対象者：全員】



● 2-2 アルバイト探しの決定状況（単一回答）【対象者：アルバイト探しをした人】

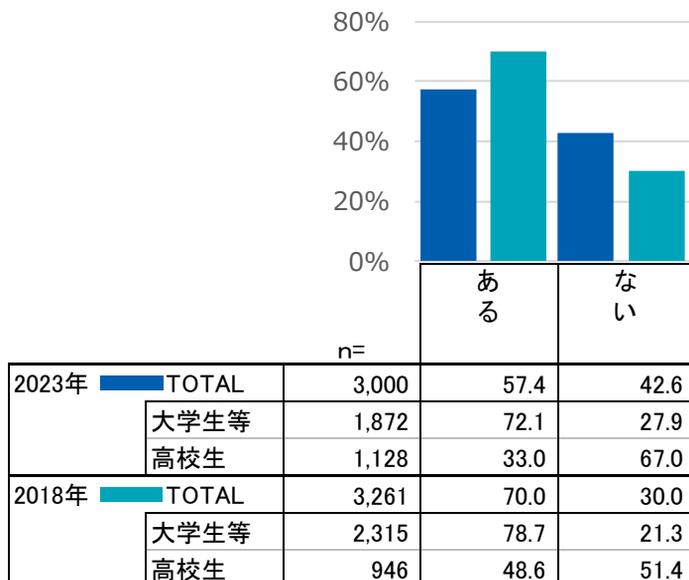


Part2 アルバイト事情の変化

「最近1年以内（2022年1月～12月）のアルバイト探し経験あり」が大きく増えた一方で、1年以内のアルバイト経験は「ある」が70.0%から57.4%に減少。減少幅は、大学生等の-6.6ポイントに比べ、高校生は-15.6ポイントと大きい。

アルバイト探し経験との関連を見てみると、「アルバイト経験あり × アルバイト探し経験なし」が47.9%から14.2%に大幅に減っており、1年以内にアルバイト探しをしていないが、アルバイト経験はある（それ以前に始めたアルバイトを続けている）学生の割合が少なくなったことが分かる。

● 2-3 最近1年以内のアルバイト経験（単一回答）【対象者：全員】



≪参考≫ 1年以内のアルバイト探しとアルバイト経験の関連

■ 2023年

	アルバイト経験あり	アルバイト経験なし	合計
アルバイト探し経験あり	43.2%	12.0%	55.2%
アルバイト探し経験なし	14.2%	30.6%	44.8%
合計	57.4%	42.6%	

■ 2018年

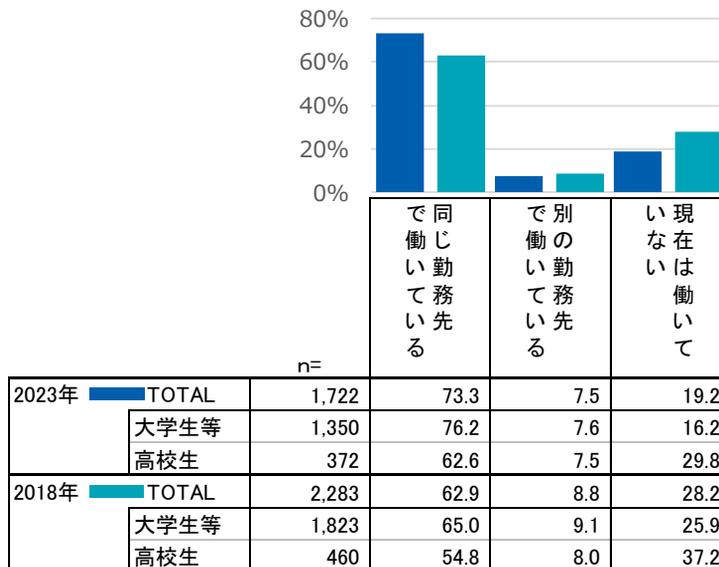
	アルバイト経験あり	アルバイト経験なし	合計
アルバイト探し経験あり	22.1%	4.6%	26.8%
アルバイト探し経験なし	47.9%	25.4%	73.2%
合計	70.0%	30.0%	

Part2 アルバイト事情の変化

1年以内にしたアルバイトの調査時点（2023年1月）での継続状況は、「同じ勤務先で働いている」が大学生等・高校生ともに増え、全体で1割程度上昇。「現在は働いていない」が28.2%から19.2%に減少したことから、1年以内にアルバイトをした割合は少なくなったものの、アルバイトをした学生の8割強が継続していることが分かる。

また、アルバイト探しをする学生が増えるなか、在学中のアルバイトに対する意欲について、前向きな学生からは「今より良い職場を見つけない」「お金を稼ぎたい」といったコメントのほか、高校生では「社会勉強をしたい」という声も目立った。

● 2-4 アルバイトの継続状況（単一回答）【対象者：全員】



● 2-5 アルバイト探しに関するコメント（フリーコメント）【対象者：全員】

■ 現在アルバイトをしているかつ、アルバイト意欲が「ぜひ働きたい」もしくは「働いても良い」

（大学生等）

「自宅近くを条件に働いているが、自分がやりたいこと、時給が良いところも探したい」（大学1年生/コンビニ・スーパー・店員）

「色々なバイトを経験したい」（大学4年生/衣類・雑貨・小物販売店員）

「待遇はとても良いが、人間関係に違和感がある」（大学2年生/その他）

（高校生）

「遊びや趣味のためにお金が欲しい」（高校3年生/コンビニ・スーパー・店員）

「将来のための社会経験を積みたい」（高校3年生/調理人、コック）

「社会に参加して色々なことが学べる。お金の管理など知ること、将来にも活かせると思う」（高校1年生/飲食店のホールスタッフ）

■ 現在アルバイトをしていないかつ、アルバイト意欲が「できるなら働きたくない」もしくは「働く気はない」

（大学生等）

「大学の研究などが忙しくて暇がない」（大学4年生）

「特に生活に困っていない。まずは就職のために、勉強に力を入れたい」（大学3年生）

「前の職場の嫌な経験が記憶に残っている」（大学1年生）

「自分と確実にあう職場がどうか分からない」（大学3年生）

「給料が安いし、安心して休めない」（大学4年生）

（高校生）

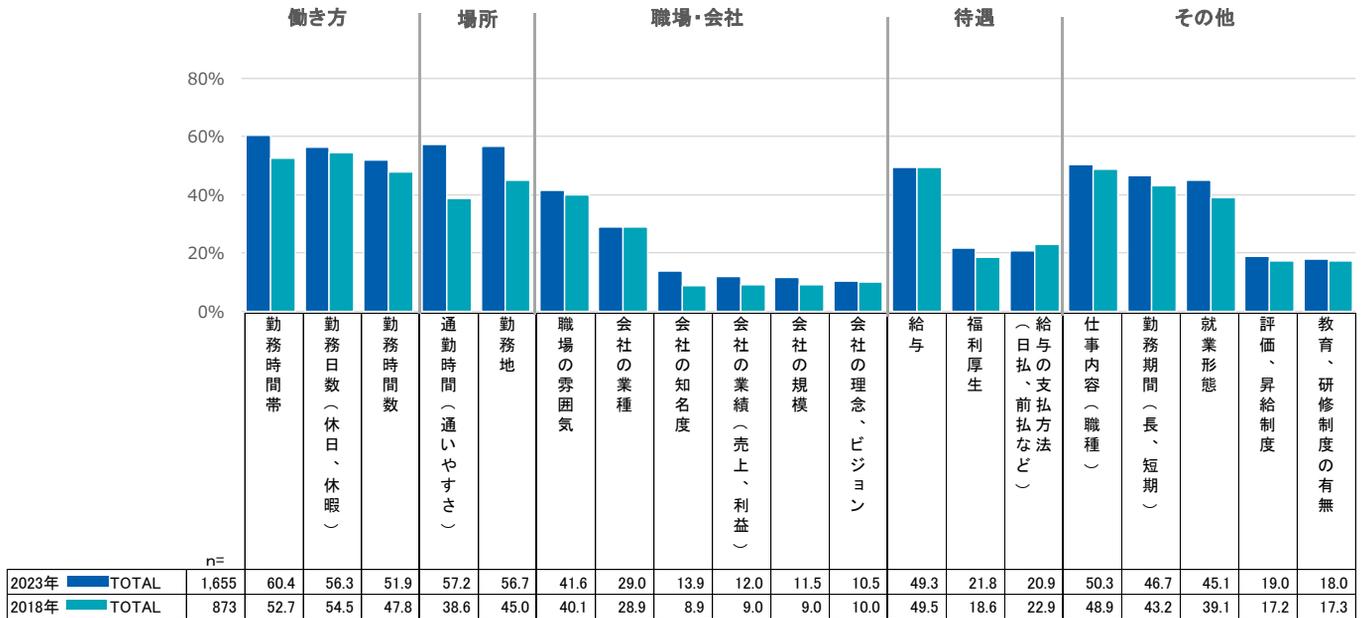
「大学生になってからアルバイトをしたい」（高校2年生）

Part2 アルバイト事情の変化

アルバイト探しにおいて絶対条件だったものについては、2018年と変わらず、学業と私生活などの両立のため、勤務時間帯60.4%や勤務日数56.3%といった働き方関連に回答が集まった。また、今回は特に、通勤時間が57.2%、勤務地が56.7%とそれぞれ半数以上の回答を集め、アルバイトをする場所が学生にとってより重要になっていることが分かった。

2018年から2023年にかけて大きく伸びた項目は、通勤時間が38.6%→57.2%で18.6ポイント、勤務地が45.0%から56.7%で11.7ポイント、勤務時間帯が52.7%から60.4%で7.7ポイントだった。

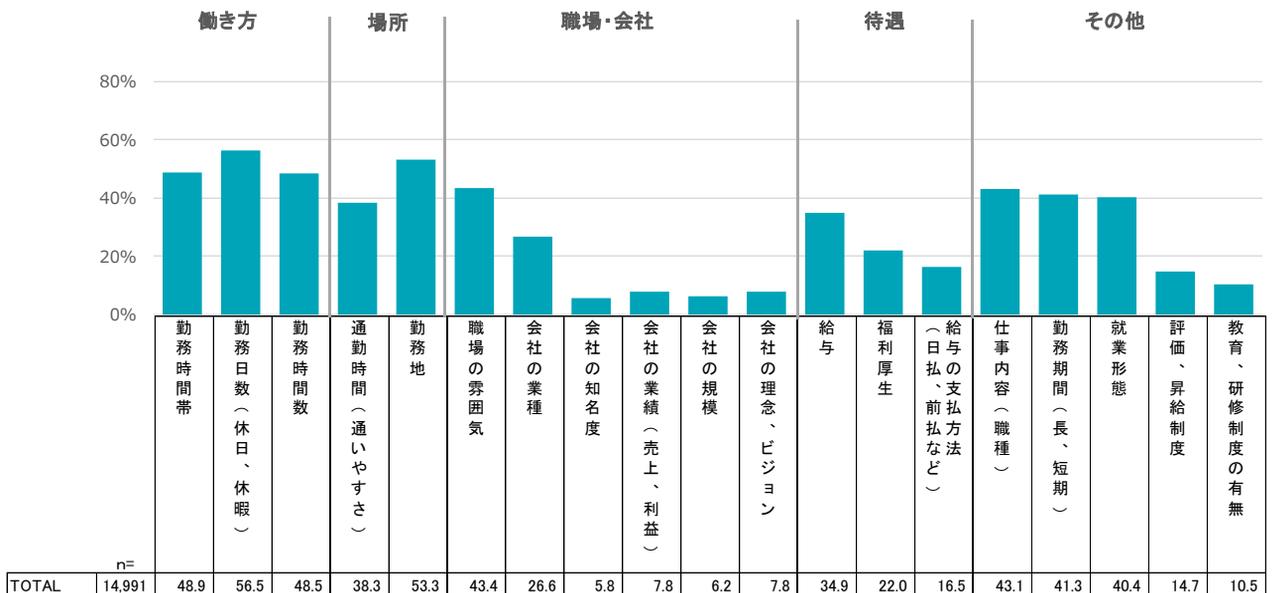
● 2-6 アルバイト探しの絶対条件 (複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人】



*各項目について「絶対条件だった」「他の条件が良ければ我慢した」「もともと関心がなかった」のうち、「絶対条件だった」を選択した人の割合を集計

《参考》「求職者の動向・意識調査 2021」の調査結果

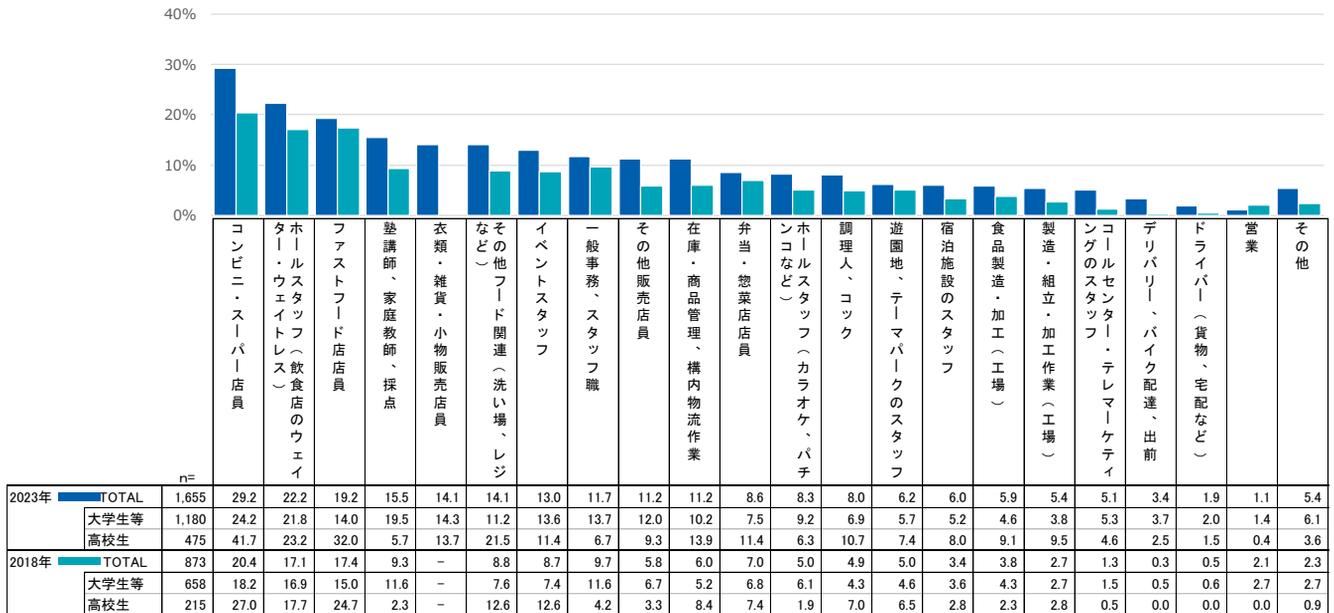
※以下調査の対象者は、全国15～69歳の男女、最近1年間に仕事探し経験あり(新卒以外)、現在および仕事探し当時の職業がアルバイト・パート、契約社員、派遣社員、正社員、専業主婦/主夫、無職・定年退職のいずれか



Part2 アルバイト事情の変化

1年以内に探したアルバイトの仕事内容では、2018年から変わらず、コンビニ・スーパー店員が最多。特に高校生で、27.0%から41.7%に大きく伸びた。飲食店のホールスタッフ、ファストフード店員が続き、いずれも増加して2割前後に上っている。また、ほぼ全ての仕事内容が2018年から増えていることから、学生がより多くの仕事内容を選択肢に入れて、アルバイト探しをしている可能性が考えられる。

● 2-7 1年以内に探したアルバイトの仕事内容 (複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人】



■ 2023年 TOP5

全体	大学生等	高校生
1 コンビニ・スーパー店員 …29.2%	1 コンビニ・スーパー店員 …24.2%	1 コンビニ・スーパー店員 …41.7%
2 飲食店のホールスタッフ …22.2%	2 飲食店のホールスタッフ …21.8%	2 ファストフード店員 …32.0%
3 ファストフード店員 …19.2%	3 塾講師、家庭教師、採点 …19.5%	3 飲食店のホールスタッフ …23.2%
4 塾講師、家庭教師、採点 …15.5%	4 衣類・雑貨・小物販売店員 …14.3%	4 その他フード関連 …21.5%
5 衣類・雑貨・小物販売店員 …14.1%	5 ファストフード店員 …14.0%	在庫・商品管理、構内物流 …13.9%

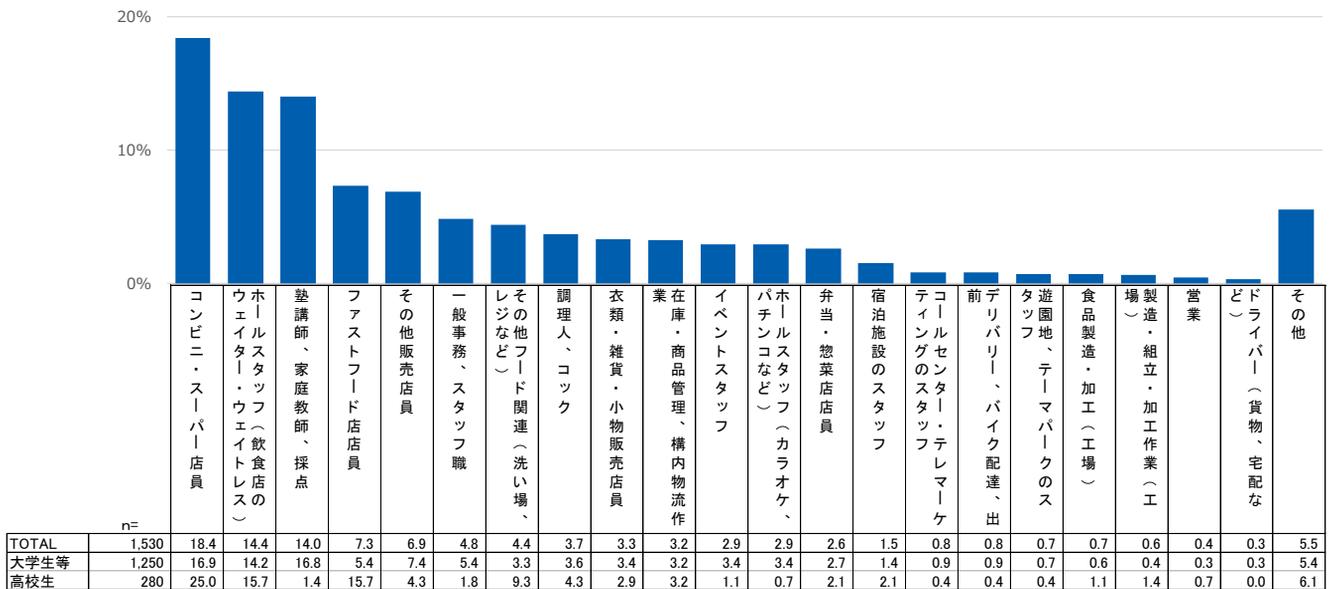
■ 2018年 TOP5

全体	大学生等	高校生
1 コンビニ・スーパー店員 …20.4%	1 コンビニ・スーパー店員 …18.2%	1 コンビニ・スーパー店員 …27.0%
2 ファストフード店員 …17.4%	2 飲食店のホールスタッフ …16.9%	2 ファストフード店員 …24.7%
3 飲食店のホールスタッフ …17.1%	3 ファストフード店員 …15.0%	3 飲食店のホールスタッフ …17.7%
4 一般事務、スタッフ職 …9.7%	塾講師、家庭教師、採点 …11.6%	その他フード関連 …12.6%
5 塾講師、家庭教師、採点 …9.3%	一般事務、スタッフ職 …11.6%	イベントスタッフ …12.6%

Part2 アルバイト事情の変化

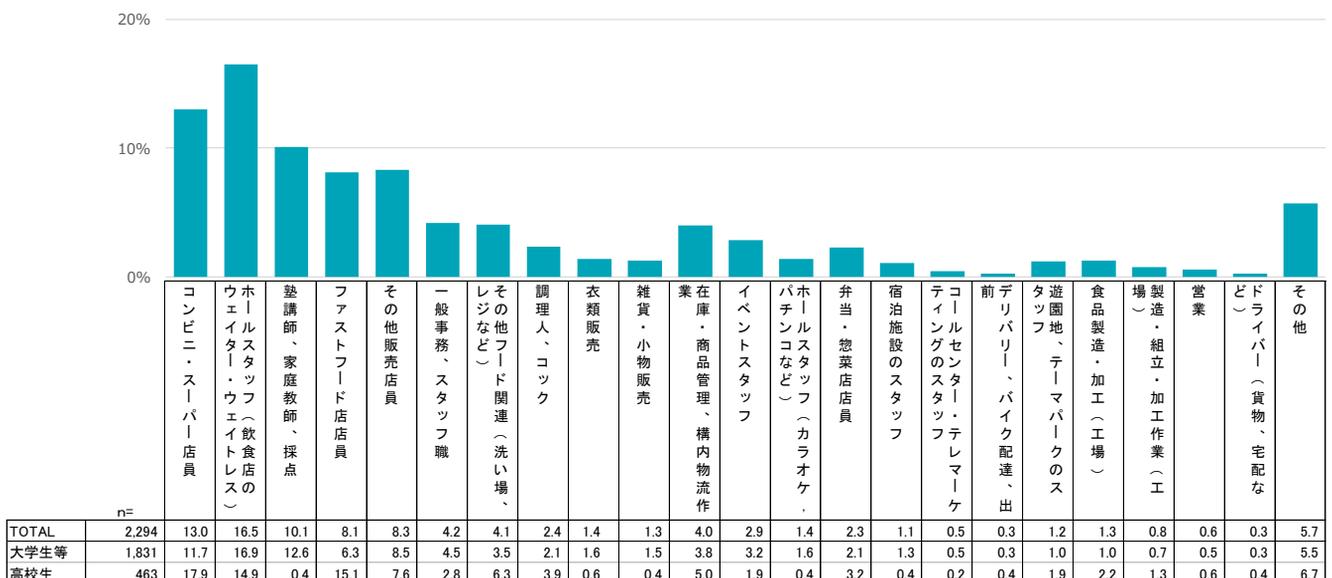
現在アルバイトをしている仕事内容も同様に、コンビニ・スーパー店員が最も多く、アルバイトをしている高校生の4人に1人が従事していることが分かった。2018年調査の参考結果（ページ下部）では、最近1年以内にしたアルバイトの仕事内容として、飲食店のホールスタッフが多かったが、今回は全体は2番目、大学生等では塾講師などに次いで3番目という結果だった。

● 2-8 現在のアルバイトの仕事内容（単一回答）【対象者：現在アルバイトをしている人】



《参考》 2018年調査

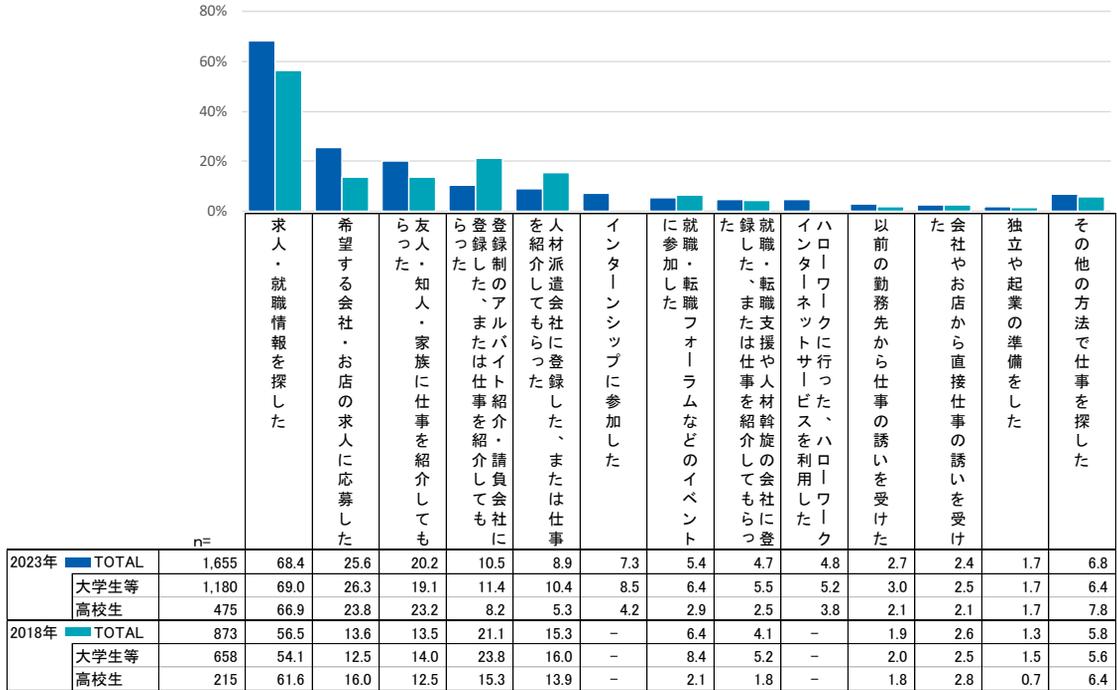
※以下グラフは、最近1年以内にアルバイトをした仕事内容（単一回答／複数ある場合は直近のもの）を示したもの



Part3 アルバイト探しの変化

1年以内におこなったアルバイト探しでは、「求人・就職情報を探した」が10ポイント強増加し、約7割に上った。一方で、登録制のアルバイトや請負会社、人材派遣会社を利用する学生の割合がいずれも減少している。コロナ禍でイベント開催が自粛されたことや、単発・短期求人のマッチングサイトが普及した影響などが考えられる。

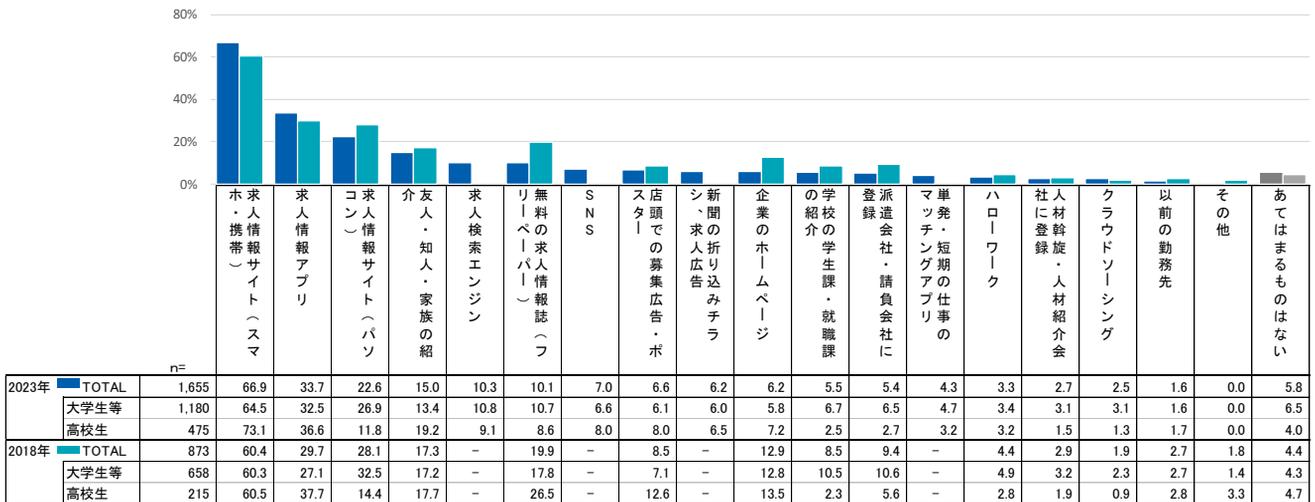
● 3-1 1年以内におこなったアルバイト探し (複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人】



アルバイト探しで利用した情報源では、求人情報サイト（スマホ・携帯）と求人情報アプリが増加した一方、求人情報サイト（パソコン）が減少した。また、無料の求人情報誌を利用した割合は、高校生で約18ポイントと大きくダウンした。

スマートフォンでのアルバイト探しが進むなか、今回新たに調査したSNSを、アルバイト探しで利用した割合は7.0%だった。

● 3-2 利用した情報源 (複数回答)【対象者：アルバイト探しをした人】



Part3 アルバイト探しの変化

求人情報サイト（スマホ・携帯）を使って応募した高校生の割合が約8ポイント増加。全体で45.0%となり、約半数の学生が、最近1年のアルバイト探しで求人情報サイト（スマホ・携帯）から応募している。

採用につながった情報源も3-2～3-3同様、求人情報サイト（スマホ・携帯）が最も多く、求人情報アプリが続いて、前回からそれぞれ増加。学生のアルバイト探しの情報源として、より一般的になっていることが分かる。

● 3-3 応募につながった情報源（複数回答）【対象者：アルバイト探しをした人】



● 3-4 採用（内定）につながった情報源（複数回答）【対象者：アルバイト探しをした人】

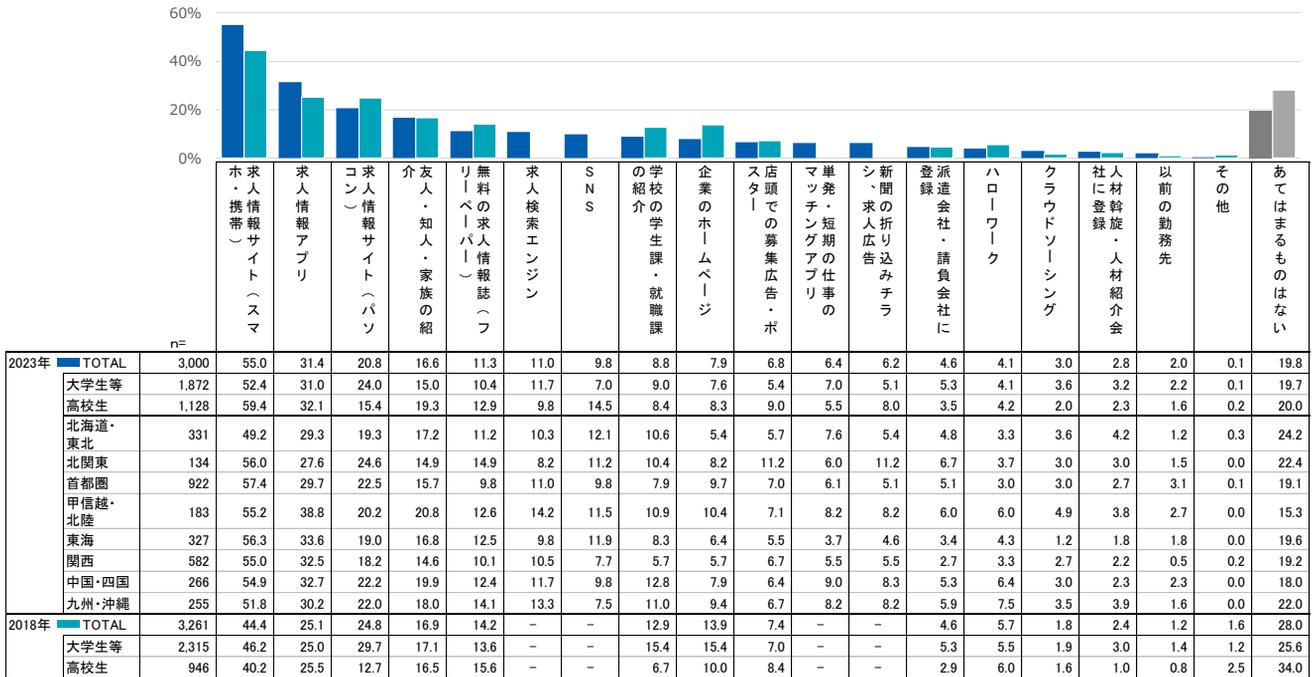


*「あてはまるものはない」には、アルバイト探しをしたが、採用にいたっていない人を含む

Part3 アルバイト探しの変化

求人情報サイト（スマホ・携帯）が、高校生で+20ポイント程と大きく伸びた。また、友人・知人・家族の紹介については、引き続き、一定の利用希望があることが分かる。求人検索エンジンやSNSも10%前後に上り、特にSNSは、高校生が比較的多く回答した。

● 3-5 今後（も）利用したい情報源（複数回答）【対象者：全員】



《参考》「求職者の動向・意識調査 2021」の調査結果

※以下調査の対象者は、全国15～69歳の男女、最近1年間に仕事探し経験あり（新卒以外）、現在および仕事探し当時の職業がアルバイト・パート、契約社員、派遣社員、正社員、専業主婦/主夫、無職・定年退職のいずれか

